

2025年1月18日

岡部昌平

第363回山口西田読書会のプロトコル（2025年1月18日開催／同2月1日配付）

【テキスト】

第四巻「左右田博士に答ふ」五の第2段落311頁2行目「認識論が真に知識の成立を明にしようと思ふなら」から、同段落の最後312頁6行目「カントのカントに還って尚一応考へて見たい。」までを読了

【キーセンテンス】

自覚的主観は何処までも内在的でなければならぬ、内在的でない自覚的主観といふ如きことは自家撞着である（311頁5行目）

【問い】

「自」覚にも「ich bin ich」にも初めから「私（自）」がある。（自）覚的主観ではなぜいけないのか

自覚的主観が内在的だとあるが直覚（そのようなものがあるならば）内にあるのはありのままの事実で、思惟にとっては何か分からないものだけではないか。そもそも「私」は内在しないのではないか。